大阪体育大学社会貢献センターの取組み

冨　山　浩　三*

一番最初の話のところで，大学が地域課題の解決と大学の活性化，大学が地域との連携やボランティアの育成というお話がありました。では，大阪にある学生数3000人弱の小さな体育大学がそれをどんなふうに実現しているのかという具体的な実践事例を紹介してほしいということでございましたので，大阪体育大学がこんなことをやっているという事例のご紹介をさせていただければと思っています。

大阪体育大学には，「不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」という建学の精神がありますので，大学として社会に奉仕することは建学の精神であり理念だ，大学が学生を育成することもそもそも社会に奉仕するための一つの手段といいますか，そういう形で社会に奉仕しているということでいけば，地域に貢献していくということは非常に重要なところかなということです。大学というのは，知識の創造・伝達・応用ということで，知識の創造というところでいけば研究，そして伝達というのは教育，応用というところで社会貢献だろうとわれわれも考えています。

私はスポーツマネジメントが専門ですけれども，一般的にはマーケティングという考え方が非常に変遷しています。マーケティングの神様であるコトラーが言うには，マーケティング1.0，これは製品中心のマーケティングでいかに物を作って売り込むか，マーケティング2.0では消費者志向のマーケティングということで，いかに顧客が求める物を作り出すかというところだったわけです。そこからマーケティング3.0になりました。これは価値主導のマーケティングということで。生産する側の企業が消費者とともに価値をどんなふうに作っていくかということが問われる時代になったということです。先ほど増井様のお話でスポーツというのは，感動を生んだり人と人とをつなげたり，そういった非常に価値のあるものだというお話がありましたけれども，まさにそういった価値を大学が作ってこういうものですとか，企業が作ってこういうものなんですという押し売りや受け売りではなく，地域の人たちと一緒に作っていくというようなことが，今，3.0で求められているところです。

その後，デジタル経済のマーケティングというところにつながっていくのですけれども，そういう意味では大学が社会的なスポーツの価値を，学生がいますので，われわれは私立の大学ですので，学生の教育というところを主眼に置きながらも学生教育を通して社会に対して，体育大学ですので，体育とかスポーツというところの価値をきちんと伝えていくということが，われわれのセンターに与えられている使命ではないかなと，そのことが体力やスポーツ自体の存在感といいますか，プレゼンスといいますか，そういうものを高めていくのではないかと考えたりもしています。

大阪体育大学は，ビジョン2024ということで，2024のスパンで「大体大力」「新しい時代を切り拓く」というビジョンを定めて活動しています。その中で，拠点づくりビジョンというところに，体育学・スポーツ科学・教育学の研究・実践・人材の力を活かして，地域社会の活性化に貢献する拠点を作りますというようなことをビジョンとして掲げまして，様々な活動を展開しているということになります。モデルでいいますと，大学と企業や様々な組織・団体と連携を取りながら，そして，その先にいる市民の方々に対して，われわれからダイレクトに市民の方々にアプローチすることもありますし，様々な組織と連携しながら市民の方に向かっていろいろな支援をしていくということもあります。

具体的にはというところですが，大阪体育大学では社会貢献センター，このような五つの領域に分けて活動を展開しています。

大阪体育大学は，もともと体育大学体育学部としてスタートしましたけれども，やはり福祉の時代に向かって，健康福祉学部というのを作りました。これは体育・スポーツが持っている価値を福祉とつなげて，様々な福祉領域の人材を育成するということだったのですが，そこで一定の役割を終えて，現在は大阪体育

* 大阪体育大学

大学体育学部と，大阪体育大学教育学部という２学部で大学の運営を行っています。体育学部が１学年550人程度の定員であるのに対して，教育学部は120人ぐらいですので，少し小さい学部ですけれども，そんな教育学部が最近できました。

体育学部にはこちらと同じ生涯スポーツ実践センター，教育学部の前身である社会福祉学部には社会福祉実践研究センターとそれぞれでやっていたのですけれども，最近に二つのセンターを発展的に合併させまして，社会貢献センターと改名して活動することになりました。それで，今，２年目になりますので，それぞれがやっていた事業をうまく組み合わせて一つにしながら，どうやって事業展開していくか，事務局がどうサポートするかという，新たな組織になって，組織の中で少しばたばたしていたようなところがありますが，それらの二つの学部の事業を合わせて，今，いろいろな実践的な活動を行っています。

主催事業ということで，大学のセンター主催で実施しているのが，こういった事業になります。OUHSスポーツキャンプ。大学に子どもたちを集めて大学の施設で事業展開しています。サマーキャンプに連れていったり，日常的な運動教室ということで，子ども運動教室は幼稚園から２年生まで，子どもスポーツクラブは小学校１年生から６年生までという世代で地域の子どもたちにスポーツ活動を展開しています。あるいはサンライズキャンプ，これは次のスライドになりますが，教育学部が展開している特別支援教育の教育支援講演会とか，トワイライト研修会という特別支援教育の研修会，貧困状態の子どもたちに対する教育支援方策の調査，発達障害に見られる運動不器用さ解消研究，こんなことをセンターとしては実施しています。

連携事業ということで，地域や外部の団体と連携しながら実施している事業としては，本学は泉南郡熊取町という大阪の南の端のほぼ和歌山というところにありますので，そこの熊取町の地元の小学校・中学校との連携，あるいは小児がん児童生徒の体力保持支援運動教室，＜シンギカン@01:05:31＞体育教室，ライフスポーツ財団との特別交流，和歌山大学との連携事業，くまとりロードレースということで，地元のマラソン大会との連携というところがあります。

そして，受託事業として，泉大津市から様々な事業を受託して今，一緒にいろいろなことを展開しています。チャレンジ・ザ・ウォークの参加者調査ですとか，あるいは派遣事業ということで，いろいろな事業に派遣しています。

そんな中のいくつかの事業をご紹介します。OUHSスポーツキャンプは10年ぐらい行われている事業です。大阪体育大学の教員が本学の施設で地域住民に対して，あるいは高齢者も含めてプログラム指導ということで，今，サッカーとテニスでやっていますけれども，バスケットやバレーやダンス，そういった種目で地域の子どもたちに対してクリニックを行ってまいりました。そして，高齢者の人たちに健康増進活動教室ということで，午前中に本学にスポーツドクターもいますので健康診断，午後からはレクリエーション活動というような健康増進活動教室というような事業も行っています。

サンライズキャンプというのが，東日本大震災で大きな事故のあった福島第一原発の事故で避難を余儀なくされた南相馬市の方々に復興支援活動を行ってまいりました。これも震災直後からずっと行ってまいりましたので，10年ほど続いている活動になります。復興支援住宅においてサロン活動とか，地域の小学校の体育の授業支援などなど行っていますが，やはり復興直後から行っていますので，最初は土砂のかき出しみたいなことをやりながら，そして，仮設住宅ができて仮設住宅の方々の運動支援だとか，サロン活動のお手伝いということを行ってきました。

そして最近では避難区域の立ち入りが解除になりましたので，住民の方々が帰還するようになりました。そうすると，また新たなまちづくりの課題がそこにはありますので，そのまちづくり，新たな人間関係づくりということで，地域の運動会イベントを企画して人間関係の再構築を行ったり，あるいは地域のスポーツクラブの活動支援だったりをしています。地域には小学校がありますけれども，子どもがまだ少ない状態ですので，四つあった小学校を一つに合併して一つの小学校で授業をしています。教員が少なくて体育の授業がなかなかできない，とりわけ体操で困っているということで，本学の体操の教員が行きまして，マットや跳び箱ということを指導して子どもたちをも非常に喜んでいただいています。あとは健康相談ですとか，老人ホームでエビとカニの格好をして体操をしたり，その地域のスポーツクラブの子どもたちと一緒に活動をしたり，こんな活動をしながら震災から刻々と変わる地域のニーズみたいなものを感じながら活動をしてい

ます。

子ども運動教室は，３歳から小学校２年までの子どもたちを対象にということで，これは教育学部の先生が活動をされて，非常にたくさん子どもたちを集めてやっています。どちらかというと障害があったり運動が苦手な子どもたち向けの授業です。こちらは小学生を対象ということで，総合型スポーツクラブのコンセプトを取り入れて，単一のスポーツ教室ではなくて，いろいろなスポーツ活動ができるようにプログラミングされたスポーツクラブです。こんな活動を実施していただいています。

あるいは，今，受託事業ということにしていますが，泉大津市の連携事業で様々なことを行っています。子ども体力向上プロジェクトは，学童保育の子どもたちにプログラムを提供するということです。運動スポーツ習慣化促進事業ということで，スポーツ庁さんで支援されている運動スポーツ習慣化促進事業を泉大津が受託しまして本学と一緒にウォーキング活動を行いました。その中でウォーキングの授業とスポーツ屋台村といった事業をしたり，足指プロジェクトということで，泉大津の市長さんがいわゆる足指把持力，足の指で掴む力が非常に重要なんだということで，泉大津の市役所の職員の方々は，全員五本指ソックスと草履を履いて仕事をされています。市役所に行ったら，こういうコンセプトで市の職員は草履を履いていますということで，市長の顔写真入りでポスターが貼ってあります。幼稚園の子どもたちから足指を鍛えるような活動をして展開をされているのですが，本学でその結果のエビデンスを出すような足指の力を測って健康診断をしたりとか，あるいは歩き方，握力のバランス，そういったものを測定するということを実施しています。

そして，その運動スポーツ習慣化ということなので，ただ事業をやっているだけではなくて，大学として取り組むのだからということで，では，どうすれば運動スポーツが習慣化するのかということを，実践研究の視点で取り組んでみました。まず，先行研究を洗い出しまして，情報を開示してあげること，そしてネットワークづくりをして仲間を作ってあげること，そして，習慣的に，定期的にスポーツに接しられるような環境を作ってあげること，達成感を感じられることを提供してあげること，こういう要因が習慣化に大事だということを割り出しました。

実際にウォーキングを教室をして，その方々にこういう要素を取り込んだプログラムを提供しようということ，そのウォーキング教室は，これもスポーツ庁さんが実施されているファンプラスウォークということで，ただ歩くだけではなくてプラス少し楽しいことを取り入れようということで，ヨガをやったり，ミニライブをしたり，あるいは写真ということでテレビ局のカメラマンをやっている人に来ていただいて，写真を撮るときのポイントはこんなことですよって，お話をいただきながら歩いて写真を撮ったり，そのまま神社の境内に行って，「ここで写真を撮ってみましょう」と写真を撮ったり，そういう少しプラスウォークで楽しめる要因を取り入れて企画をしてみました。いろいろインタビューをしたり調査をしたりして，やはりこういった要因が非常に重要なのだなということが分かりました。

ただし，集まった人が非常に少なくて，10人前後の人しかこのウォーキングのイベントに来てくださらなかったので，何よりも人を集めることがまず大変だということが大きな結果ではありました。しかしながら，こういう実践活動を通して，現場からデータを抽出してフィードバックしていくということも，大学のセンターとしての役割かなということで，こういった研究活動にも取り組んでいます。

そして，屋台村で行った事業が，どんなふうに地域活性化につながっているのかと。地域活性化と一口で言いますけれども，具体的にどういうことというと，漠然とした考え方の部分もあります。ということで，地域への愛着，この町はいい町だなという気持ちが小さなスポーツイベントを通じてどんなふうにつながっているのかということについて調査をしました。そうすると，こういうイベントに満足することによって，地域への思い，この地域はいい地域だよな，あるいは地域でスポーツをしたい，この町でスポーツをしたいな，あるいは地域の仲間との交流みたいな部分での地域愛着ということでいくと，イベントに満足すると地域への思い，そして地域へのスポーツ，こんな側面に効果があるということが分かりました。そして，地域への思い，この地域にというような思いが育つと，この地域でスポーツをしていきたいなというような意識につながるんだということが示されました。全体を一つにするとこうなります。

なので，こういった地域全体で屋台村のイベントは

２回でしたが，その２回に親子で来て，体育大学生が屋台村方式でいろいろな，例えば一本歯の下駄で歩いたり，レクリエーションのミニゴルフをしたり，ボッチャをしたり，そういうことをして楽しんでもらうと，その地域のスポーツとか地域への思いが育って，それがスポーツをやってみようかなということにつながるという結果が出ました。こんなデータを基に，次にどういうプランニングをしていくかということにつながっていけばいいと思っているところです。

その他の事業としては，地域の連携事業ということで，大学のトラック，北村先生のところでもあったタイムトライアルということもありますが，やはりただ単に陸上競技場を走るというのは，地域の方々にとっても少しわくわくする経験になりますので本学のトラックをスタートゴールにした地元のミニマラソン大会を支援したり，その他にも先ほど出たようないろいろなことをやっています。

今後の課題ですけれども，学生の学びか教員の研究活動につながっていく，こんなことをコンセプトにしながら大学の社会貢献を行っていくべきではないかと考えています。主に学生の学び，こういう経験を全て学生を絡めて，学生の力で学生を主体的に取り組ませながら行っていますので，学生の学びにつなげられるように工夫しながらやっています。

今後の課題ということでスクラップアンドビルドと書きましたけれども，やはり今日のお話でもあった事業化という部分です。これが収益につながって，どんなふうにキャッシュフローを作るかということが課題だとお話を伺いながら思っていました。キッズボーシャーズの活動は，１カ月で今1500円です。子どもスポーツ教室はただです。その辺のコンセプトも一致していかなければいけないのですけれども，ただだとあんなにたくさん人が来るのですけれども，1500円をもらうとあれだけしか来なくなるということがあります。大阪ですので，大阪府とか堺市とか，みんなプロスポーツ選手を呼んでクリニックを500円とかでやっていますので，お金を払ってスポーツをするという意識みたいなものを育てていかなければいけないと思います。ですので，できるだけただでやらないようにしていますけれども，そのお金を払ってもいいよというような中身を作っていったり，あるいはここで私もシールを貼らしていただきました，Blue Winds というようなブランディングが非常に鹿屋体育大学さんは上手ですので，こういうものを参考にさせていただきながら，大学の資源が地域活性化に役立つような仕組み・仕掛けみたいなところで事業化をこれから進めていかなければいけないと，私も勉強させていただいたところでした。

大阪体育大学
社会貢献センター

冨山浩三

大阪体育大学

建学の精神

不断の努力で知・徳・体を修め
社会に奉仕する

学是

人類の平和と幸福のため
修学修身　智識と体力の
開発に精進努力する

大学と社会貢献

知識の創造・伝達・応用

研究・教育・社会貢献

マーケティングの変遷

大学が社会的価値を、社会とともに構築していく

大体大　ビジョン2024

大体大力、新しい時代を切り拓く

- 研究ビジョン
- 教育ビジョン
- 拠点作りビジョン

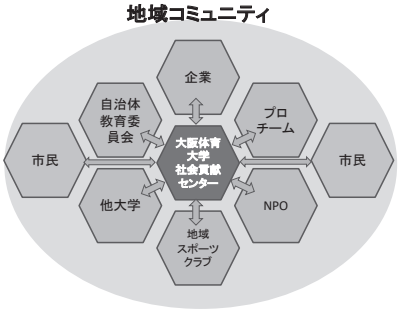
体育学・スポーツ科学・教育学の研究・実践・人材の力を生かし、地域社会の活性化に貢献する拠点、および世界で活躍するアスリートと指導者を育成・サポートする拠点となります。

大体大　ビジョン2024

大体大力、新しい時代を切り拓く

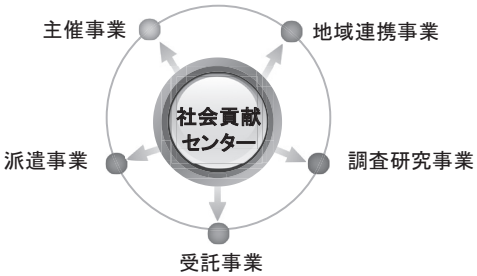
- 研究ビジョン
- 教育ビジョン
- 拠点作りビジョン

体育学・スポーツ科学・教育学の研究・実践・人材の力を生かし、地域社会の活性化に貢献する拠点、および世界で活躍するアスリートと指導者を育成・サポートする拠点となります。



地域の組織との連携、そして市民を対象とした活動

センター事業の概要



主催事業

- OHUSスポーツキャンプ
- OUHSサマーキャンプ
- 子ども運動教室
- 子どもスポーツクラブ
- サンライズキャンプ（福島県復興支援活動）
- 特別支援教育　教育講演会
- 特別支援教育　トワイライト研修会
- 貧困状態の子どもに対する教育支援方策調査
- 発達障害に見られる運動不器用さ解消研究

連携事業

- 熊取町立南小学校大学探検
- 熊取町立南小学校マラソン大会
- 小児がん児童・生徒の体力保持支援運動教室
- 心技官体育教室（岸和田市連携事業）
- （公財）ライフスポーツ財団連携ドイツ交流事業
- 和歌山大学岸和田サテライト連携事業
- 熊取ロードレース実施支援

受託事業

- 泉大津市子ども体力向上プロジェクト
- ライフチャレンジ・ザ・ウオーク参加者調査

派遣事業

- 障害体験授業（出前授業）
- 大阪市西成区レクリエーション大会（審判派遣）

活動事例

主催事業

OUHSスポーツキャンプ

大阪体育大学の教員が、本学の施設で、地域住民（小学生と高齢者）に対してプログラム指導

サッカークリニック
テニスクリニック
健康増進活動

主催事業

サンライズキャンプ

東日本大震災における福島第一原子力発電所の事故により、避難生活をされていた南相馬市において、復興支援活動。
現地では、避難指示が解除され、仮設住宅が解体された。

復興支援住宅においてサロン活動支援
地域の小学校の体育の授業支援
地域スポーツクラブ活動支援
地域運動会イベントの実施
を行っている。

サンライズキャンプin福島

主催事業

子ども運動教室

3歳から小学校2年生までの子どもたちを対象に、運動が苦手な子どもたちや障がいがある子どもたちが一緒に学び楽しめる教室

教育学部教員の監修の元学生が指導を行う

主催事業

キッズボーシャーズ

小学生を対象に、総合型クラブのコンセプトを取り入れ、単一の種目の技術指導ではなく、様々な活動に参加できるようにプログラミングされたスポーツクラブ。

地域連携事業

熊取ロードレース

- 熊取ロードレース実行委員会主催、本学陸上競技場をスタート･ゴールとし、3km、5km、10kmのロードレース

今後の課題

- 全学をカバーした組織体制
- 活動のスクラップアンドビルド
- 重点活動の実施